

地方創生総合戦略 実績報告書

(平成29年度進捗状況評価)

上三川町

平成30年8月

まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成29年度実施状況について

1 はじめに

まち・ひと・しごと創生については、国と地方が一体となり、中長期的視点に立って取り組む必要があり、本町においても国の長期ビジョン及び総合戦略並びに県の人口ビジョン及び総合戦略を勘案しつつ、本町における人口の現状と将来展望を提示する「上三川町人口ビジョン」と「上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

「上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」は人口減少克服・地方創生を目的とし、人と仕事の好循環によるまちづくりを目指し、4つの基本目標と9つの基本的方向のもとに、28の戦略的な施策(作戦)を定めました。

2 進捗状況の検証・評価方法について

上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況を客観的に検証するために、上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価委員会において、すべての取組の内容について評価を行いました。「評価委員会評価」は、平成31年度に目標を達成するため、平成29年度の実績がどのように進捗しているかを、下記の5段階で評価したものです。

「評価委員の意見・提言」は、評価委員会においていただいた主な内容について掲載しています。

5段階評価 (単年度評価)	A	目標以上に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 実績値から計画期間より早く目標値達成が見込める 事業内容が目標達成に非常に効果が認められる
	B	目標達成に向けて順調に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 実績値から計画期間内の目標値達成が見込める 事業内容が目標達成に効果が認められる
	C	やや遅れているが概ね順調に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 実績値から計画期間内の目標値達成に向けて対策が必要と判断される 目標達成のために、事業内容に工夫が必要
	D	遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい	<ul style="list-style-type: none"> 実績値から計画期間内の目標値達成が難しいと判断される 目標達成のために、事業内容の見直し・改善が必要
	E	ほとんど未達成	<ul style="list-style-type: none"> 未着手

3 平成29年度の実施状況について

達成度別の作戦数

平成29年度実績は、28作戦中4作戦で「目標以上に進んでいる」、13作戦で「順調に進んでいる」、11作戦で「概ね順調に進んでいる」と評価されました。今後、評価委員会で受けた意見・提言をもとに、平成31年度の全作戦目標達成に向けて事業を推進してまいります。

5段階評価別	作戦数	全体に占める割合(28作戦中)
A 目標以上に進んでいる	4	14.3%
B 目標達成に向けて順調に進んでいる	13	46.4%
C やや遅れているが概ね順調に進んでいる	11	39.3%
D 遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい	0	0.0%
E ほとんど未達成	0	0.0%

上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業毎の担当課一覧

上三川町総合戦略

基本目標・成果目標	基本的方向	No.	作戦	KPI	担当課	評価委員会 評価
基本目標1 若い世代の就労や雇 用の創出	農・商・工業の活性化の 推進	1	地元農業活性化プロジェクト	新規就農者数(年間)	産業振興課	C
				JAうつのみや上三川集出荷所の 青果物販売数量	産業振興課	
		2	町の名物をつくらうプロジェクト	新商品開発数	産業振興課	B
		3	地元企業交流プロジェクト	イベント開催数	産業振興課	C
		4	商業経営の近代化	制度融資利用件数	産業振興課	C
	5	商店街再生に向けた検討	町内の商店(大型店以外)で買い 物をしている町民の割合	産業振興課	B	
	雇用創出の推進	6	起業化等の支援	創業資金融資制度利用件数	産業振興課	C
基本目標2 子育て世代や若者の 定住の促進	定住支援の推進	7	空き家対策事業	空き家の利活用件数	建築課	C
		8	住宅・宅地の供給推進	町営住宅の改修率	建築課	B
		9	定住のための住宅取得支援	新築住宅件数	建築課	C
	町の魅力アップの推進	10	上三川町住んでよといこPR	全国移住ナビページのアクセス数	企画課	C
		11	上三川町来てよといこPR	サンフラワー祭り来場者数	産業振興課	B
				夕顔サマーフェスティバル参加団 体数	産業振興課	
12	水環境のPR	上水道の整備状況についての満 足度	上下水道課	C		
		下水道の整備状況についての満 足度	上下水道課			
基本目標3 若い世代の結婚・出 産・子育ての支援及 び学校教育の充実	出会いから結婚・出産・ 子育て支援の推進	13	出会い応援プログラム	婚活イベント開催数	企画課	B
		14	妊娠・出産応援プログラム	出生児数	健康課	B
		15	多子世帯応援プログラム	第3子以降出生児数	福祉課	A
		16	産後ママ応援プログラム	応援プログラム利用者数	健康課	C
		17	保育サービスの充実	待機児童数	福祉課	B
				子育て支援センター利用者数	福祉課	
	18	障がい児の療育支援	1人あたり療育回数	福祉課	A	
	学校教育の充実	19	特色ある教育活動の推進	タブレット型パソコン台数	教育総務課	B
町内学校図書館利用冊数				教育総務課		
基本目標4 誰もが健康で暮らし やすい環境づくり	安心安全を地域で守る 体制の充実	20	がんばれ消防団事業	消防団員数	総務課	A
		21	自主防災組織の推進	自主防災組織数	総務課	C
		22	安心・安全！子どもを守るかみた んプロジェクト	交通安全対策の状況に関する町 民の満足度	総務課	B
	いきいき生活の推進	23	こんにちは、じいちゃんばあちゃん 訪問事業	安否確認センサーや緊急通報装 置の設置者数	保険課	B
		24	生きがいづくり推進事業	生きがいサロンの参加延べ人数	保険課	A
		25	健康づくりの意識づけ支援事業	健康マイレージ参加者数	健康課	B
		26	運動のきっかけづくり支援事業	週1回以上の運動をしている町民 の割合	生涯学習課	B
	障がい者支援の充実	27	障がい者の雇用支援事業	就労者の賃金(時給換算)	福祉課	B
		28	音声広報による情報提供	音声広報CDの利用者数	福祉課	C

基本目標の平成29年度の状況について

■ 基本目標1 若い世代の就労や雇用の創出

成果目標	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値 (H29)
製造品出荷額等 基準値：(H24栃木県工業統計調査)	505,327 百万円	550,000 百万円	634,516 (H28)百万円
事業所従業者数 (H24 経済センサス)	16,174 人	19,400 人	17,057 (H28)人

■ 基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進

成果目標	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値 (H29)
社会増減数 (住民基本台帳)	-140 人	-100 人	24 人
町外からの滞在人口(休日) (地域経済分析システム From-to分析)	37,000 人	45,000 人	— 人
町外からの滞在人口(休日) (地域経済分析システム From-to分析)	1.10 倍	1.30 倍	1.08 倍

※町外からの滞在人口(休日)については根拠とする地域経済分析システム(RESAS)の仕様変更に伴い、滞在人口率(毎年度7月14時)で記載

※社会増減数は年度の数値(転入・転出・職権消除等)

■ 基本目標3

若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実

成果目標	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値 (H29)
婚姻届出数	142 件	160 件	140 件
合計特殊出生率	1.42	1.45	1.37 (H28)

■ 基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり

成果目標	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値 (H29)
まちの安心・安全に関する満足度 まちづくりアンケートにおける「消防・防災体制」、「治水対策」、 「交通安全対策」、「防犯体制」の各満足度の加重平均値	0.70	1.00 以上	—
障がい者福祉に対する町民満足度 まちづくりアンケートにおける加重平均値	0.64	1.00 以上	—

※実績値算出には総合計画策定時に実施している「まちづくりアンケート」(5年に一度)が必要となるため実績値未算出(途中経過を把握するため、簡易アンケートの実施を検討)

総合戦略評価シート

No. 1

所管課 産業振興課

P (計画)	基本目標	基本目標 1 若い世代の就労や雇用の創出		
	基本的方向	農・商・工業の活性化の推進		
	作戦	地元農業活性化プロジェクト		
	K P I (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
新規就農者数		6 人	7 人	
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 農業次世代人材投資資金(旧青年就農給付金):対象者4人 園芸産地振興対策事業:1件(パイプハウス2棟1,080㎡) 		
	事業費	事業名	決算額 (円)	
		新規就農総合支援事業(農業次世代人材投資資金)	6,000,000	
		園芸産地振興対策事業	600,000	
C (評価)	K P I の状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A～Eで評価)
		新規就農者数	3 (2) 人	D:遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい
		J A うつのみや上三川集出荷所の青果物販売数量	5,020 (4,757) t	B:目標達成に向けて順調に進捗している
	分析	<ul style="list-style-type: none"> 現在の農業を取り巻く環境は厳しい状況にあり、就農する青年等が少ない。 青果物の販売数量は、一部の生産者では規模拡大を進め生産を増加しているが、他方では生産者の高齢化により離農する農業者がいるため、全体的に販売数量が低下している。 玉葱の集荷先を東部選果場に変更したため、販売数量が減少した。 		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 農業を魅力ある職業として認識し、就農に繋げるためには、稼げる農業を実現する必要があるので、県やJAなど関係機関と連携して、効率的かつ低コスト生産を可能とする農業経営を推進する必要がある。 		
A (改善)	実施予定、変更点など	<ul style="list-style-type: none"> 県やJAなど関係機関と連携し、広報やHPを活用して新規就農の希望者に周知を図る。 		
参考	評価委員会評価			
	C	<ul style="list-style-type: none"> 移住定住とあわせて、新規就農者を増やして欲しい。 現状把握、分析と戦略を見える様にし、結果についても方策との因果関係が見える様にしてほしい。 新規就農者への支援制度の見直しを検討してほしい。 		

総合戦略評価シート

No. 2

所管課 産業振興課

P (計画)	基本目標	基本目標 1 若い世代の就労や雇用の創出		
	基本的方向	農・商・工業の活性化の推進		
	作戦	町の名物をつくろうプロジェクト		
	K P I (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		新商品開発数	— 種類	3 種類
地方創生交付金 対象事業 K P I	かみのかわブランド新商品 開発数(認定数)	1(H28) 種類	4(H30) 種類	
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・上三川町特産物販路拡大事業:①(県内)宇都宮市内のホテルで町産野菜を使用した料理の提供②(県外)るるぶキッチンAKASAKAで町産野菜を使用した料理の提供③横浜市たまプラーザ駅前テラスマルシェで本町特産物の販売・PRを実施した。 ・農産物加工組合が新商品を研究開発し、販売につなげた。 ・上三川町かみのかわブランド認定審査会において、14品目の認定を行った。 ・特産品やブランド品のPR・販売の拠点施設となる直売所の設計等を実施した。 		
	事業費	事業名	決算額(円)	
		上三川町特産物販路拡大事業	4,645,591	
	地方創生交付金 対象事業費	かみのかわブランド認定事業	783,578	
		農産物直売所建設事業(設計費等)	2,379,240	
		上三川町特産物販路拡大事業	4,618,099	
かみのかわブランド認定事業	552,760			
C (評価)	K P I の状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A～Eで評価)
		新商品開発数	1 (1) 種類	B:目標達成に向けて順調に進捗している
	かみのかわブランド新商品 開発数(認定数)	14 (0) 種類	A:目標以上に進んでいる	
	分析	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外で町産特産物のPR活動を実施し、町のPRにつながった。 ・農産物加工組合が販売した新商品は、道の駅等で評判が良かった。 ・上三川町を代表する農産物や加工品の認定が行えた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・かみのかわブランドの認知度が低いため、今後、更なる周知を図ることが必要である。 			
A (改善)	実施予定、変更点など	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も県内・県外において町産特産物のPRのため販路拡大事業に取り組む。 ・平成30年度についても、7月から11月までの期間で、募集を開始する予定となっております。 ・ラジオ等のメディアを活用し、かみのかわブランドの周知を図っていく。 		
参考	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・金融機関など、企業に普及促進を手伝ってもらえるのもよい。 ・売れるためには、ブランド品の積極的な仕掛けとPRが必要である。 ・CMを流したり、「かんぴょう料理100品」等を仕掛けて、全国ベースに載せる必要があるのではと思う。 ・ブランドの周知を町外だけでなく、町民にもまず行うべきでは。周知活動が基本的に足りないのではないかと。 		
	B			

総合戦略評価シート

No.

3

所管課

産業振興課

P (計画)	基本目標	基本目標 1 若い世代の就労や雇用の創出		
	基本的方向	農・商・工業の活性化の推進		
	作戦	地元企業交流プロジェクト		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		イベント開催数	— 回	5 回
D (実行)	事業実績	・企業間交流会の実施		
	事業費	事業名	決算額(円)	
		企業間交流会事業	421,345	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A～Eで評価)
		イベント開催数	1 (0) 回	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している
	分析	・企業間交流会を実施したところ、42企業(56人)の参加があり、普段交流の少ない異なる業種の交流ができた。		
	課題	・交流会後のアンケートの結果を分析し、次回の開催方法について検討する。		
A (改善)	実施予定、変更点など	・平成30年度も11月に実施する予定		
参考	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や効果を明確にして実施して欲しい。 ・交流会後に報告書の作成や成果発表会を開催することで、交流会の結果、成果、メリット・デメリットについても見える化して欲しい。 ・企業が必ず商工会へ入る制度を作って欲しい。 		
	C			

総合戦略評価シート

No.

4

所管課

産業振興課

P (計画)	基本目標	基本目標 1 若い世代の就労や雇用の創出		
	基本的方向	農・商・工業の活性化の推進		
	作戦	商業経営の近代化		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		制度融資利用件数	18 件	23 件
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・町内金融機関と連携した制度融資利用の推進 ・融資制度内容の改善検討 		
	事業費	事業名	決算額(円)	
		中小企業事業資金融資 信用保証料補助	556,813	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A～Eで評価)
		制度融資利用件数	14 (22) 件	C : やや遅れているが、概ね順調に進捗している
	分析	利用件数が減っており、抜本的な制度内容の改善を実施しなければ融資額自体の増加は難しいと考える。		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・抜本的な制度内容の改善検討 ・空き店舗の利活用の可能性の把握 		
A (改善)	実施予定、変更点など	平成30年度より、保証料の補助率を、1/2補助から全額補助とし実施する。		
参考	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・企業との連携をすすめてほしい。 ・設備・情報・店舗に分けて、(モデルケースだけでも)プロの手を借りるのも良い。 ・ネット社会であるし、近代的なブランド・店舗・情報発信を実施してほしい。 ・金銭的な補助だけでなく、やり方とセットで支援する方法を考えるべきである。 		
	C			

総合戦略評価シート

No. 5

所管課 産業振興課

P (計画)	基本目標	基本目標 1 若い世代の就労や雇用の創出		
	基本的方向	農・商・工業の活性化の推進		
	作戦	商店街再生に向けた検討		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		町内の商店 (大型店以外) で買い物をしている町民の割合	40.0 %	48.0 %
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・プレミアム付き商品券の発行 ・新聞、かみたんメール等を活用した飲食店や商店街イベントのPR 		
	事業費	事業名	決算額(円)	
		プレミアム商品券事業	2,689,174	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A～Eで評価)
		町内の商店 (大型店以外) で買い物をしている町民の割合	※ 町内アンケート等が必要	—
	プレミアム商品券の換金率	99.59 (99.57) %	B : 目標達成に向けて順調に進捗している	
	分析	プレミアム商品券の換金率はH28の99.57%から0.02%増加し99.59%となっているため、町内商店での買い物への誘導に効果が出ている。		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・プレミアム商品券及び商店街による自主的なイベントによる効果を最大限に活かせるような周知方法の検討 		
A (改善)	実施予定、変更点など	平成30年度も実施予定。		
参考	評価委員会評価			
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ぜひとも、町内の小売店の売り上げが増加するような策を打って欲しい。 ・活性化している店舗とそうでない店舗を比較、分析して、次に活かして欲しい。 ・プレミアム商品券をうまく使って更なる活性化に期待したい。 ・商品券の使用できる商店が増えるよう検討して欲しい。 ・かみのかわブランドを買えばさらにプレミアがつくようなアイデアも検討して欲しい。 		

総合戦略評価シート

No.

6

所管課

産業振興課

P (計画)	基本目標	基本目標 1 若い世代の就労や雇用の創出		
	基本的方向	雇用創出の推進		
	作戦	起業化等の支援		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		創業資金融資制度 利用件数	1 件	3 件
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 創業支援事業計画の申請及び認定 上三川町創業支援ネットワーク連絡会による連携 		
	事業費	事業名	決算額(円)	
		創業支援事業	507,800	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A～Eで評価)
		創業資金融資制度 利用件数	0 (2) 件	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している
	分析	利用件数が減っており、抜本的な制度内容の改善を実施しなければ融資額自体の増加は難しいと考える。		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 抜本的な制度内容の改善検討 上三川町創業支援ネットワーク連絡会の連携強化 		
A (改善)	実施予定、変更点など	今年度も実施。		
参考	評価委員会評価			
	C	<ul style="list-style-type: none"> 制度内容の改善より先に、起業しやすい環境整備が必要かと思う。 昨年度1名の起業の方をフォローし、今後の「創業塾」を一緒に盛り上げていくことを期待したい。 毎年1名創業すれば10年で10社できる！長い目で見てほしい。 町と商工会の単なる分業体制ではなく、お互いの責任をはっきりさせて連携することが重要。 		

総合戦略評価シート

No.

7

所管課

建築課

P (計画)	基本目標	基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進		
	基本的方向	定住支援の推進		
	作戦	空き家対策事業		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		空き家の 利活用件数	— 件	10 件
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・実態調査実施 ・空き家情報データ化 ・空き家協議会委員公募 		
	事業費	事業名	決算額(円)	
		実態調査・空き家情報データ化	5,832,000	
地方創生交付金 対象事業費	実態調査・空き家情報データ化	5,832,000		
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A～Eで評価)
		空き家の 利活用件数	0 (0) 件	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している
	分析	実態調査の結果、町内に空き家が175軒存在することを確認した。そのうち約半数が建物に破損等が見られる状況だった。		
課題	他市町の空き家対策事業等を注視し、上三川町に適した効果的な事業が展開できるよう、協議会委員の意見等を聞きながら、利活用として長期的な視点で空き家バンク設立等を含んだ対策計画を策定する。			
A (改善)	実施予定、変更点など	空き家対策協議会により対策の検討、計画策定 空き家バンク設立など利活用の実施		
参考	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・早期の空き家バンクの設立をお願いしたい。 ・貸せる空き家探しをしてみてもどうか。それ以外にも、空き家の外観問題や雑草等の敷地外への影響により、町の評価を下げない工夫をしてほしい。 ・補助金での買い上げ措置も検討してほしい。 		
	C			

総合戦略評価シート

No.

8

所管課

建築課

P (計画)	基本目標	基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進		
	基本的方向	定住支援の推進		
	作戦	住宅・宅地の供給推進		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		町営住宅の改修率	28.0 %	85.0 %
D (実行)	事業実績	町営住宅の住人が安心して住み続けられるよう、長寿命化計画に基づき、計画的に実施計画、予算編成を確実に行っていく。		
	事業費	事業名	決算額(円)	
		第二町営住宅屋上防水改修工事(1/3)	11,448,000	
	愛宕町営住宅浴室改修工事	25,164,000		
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A～Eで評価)
		町営住宅の改修率	67.0 (38.4) %	B：目標達成に向けて順調に進捗している
	分析	住民が今後も長期にわたり安心して生活が出来るよう計画的に予防修繕がすすめられている。工事の際は住民の生活に配慮し、安全にすすめることができた。		
	課題	町営住宅全体が老朽化しており、計画にない大規模な改修が必要になることが考えられる		
A (改善)	実施予定、変更点など	第一町営住宅外壁改修工事(1/3)		
参考	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者が快く暮らせる改修をお願いしたい。 ・ひとり親家庭など、ターゲットを絞って考えてみて欲しい。 ・どのタイミングで改修にお金がかかるのかを把握し、計画的に進めて欲しい。 		
	B			

総合戦略評価シート

No.

9

所管課

建築課

P (計画)	基本目標	基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進		
	基本的方向	定住支援の推進		
	作戦	定住のための住宅取得支援		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		新築住宅件数	209 件	250 件
D (実行)	事業実績	要綱等の整備をすすめ、平成31年度の予算に計上し施行される予定。		
	事業費	事業名	決算額(円)	
		上三川町定住促進住宅取得支援	平成31年度開始予定	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A～Eで評価)
		新築住宅件数	118 (150) 件	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している
	分析	平成28年には150件ほどあった新築住宅件数だったが、年々減ってきている現状である。 要綱整備と予算確保の関係で施行が30年度末となってしまう、事業開始に影響はないが、周知する計画に遅れがでてしまった。		
	課題	定住化促進のための他の施策との調整		
A (改善)	実施予定、変更点など	本年度要綱整備、31年度補助開始		
参考	評価委員会評価	・できるだけ多くの新築住宅に何らかの支援ができるよう検討してほしい。		
	C			

総合戦略評価シート

No. 10

所管課 企画課

P (計画)	基本目標	基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進		
	基本的方向	町の魅力アップの推進		
	作戦	上三川町住んでよいところPR		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		全国移住ナビページのアクセス数	— 件/年	10,000 件/年
地方創生交付金対象事業KPI	東京圏からの転入者数	(H26・27平均) 200 人/年	400 人/年	
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> かみのかわPR事業 るるぶ上三川増刷及び東京をはじめ県外・県内の観光施設等への配布(2万部) かみたんぬいぐるみ、かみたんピンバッジ等の作成 上三川町認知度調査事業 上三川町認知度等調査の実施【H29:9.7pt】 		
	事業費	事業名	決算額(円)	
	地方創生交付金対象事業費	かみのかわPR事業	1,900,000	
		上三川町認知度調査事業	594,000	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A～Eで評価)
		全国移住ナビページのアクセス数	469 件/年 (568)	D:遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい
	東京圏からの転入者数	191 人/年 (189)	C:やや遅れているが、概ね順調に進捗している	
	分析	<ul style="list-style-type: none"> H28に作成したPR用情報誌「特別編集版るるぶ」を増刷だけでなく、県外を含む観光施設配布を行ったことにより、より幅広い地域に対してPRが出来た。 全国移住ナビページのアクセス数が伸びていないため、ページの内容など根本的な見直しが必要となる。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> KPI目標値達成のため、町の移住定住PRとして各課単独ではなく、庁内全体で取組み、内容の更新、発信をしていく仕組みを構築する必要がある。 全国移住ナビページのアクセス数につながる施策だけでなく、その後の定住につながる一連の施策を検討する必要がある。 			
A (改善)	実施予定、変更点など	<ul style="list-style-type: none"> 庁内全体で移住定住をテーマに取り組む体制を整備し、上三川町としてアピールポイントやウィークポイントの棚卸しを行い、上三川町が首都圏へ売り込むポイントを絞りPR冊子を作成する。また首都圏でPRイベントに積極的に参加し、間接的なPRに加え、直接的なPRによる移住定住の推進を図る。 		
参考	評価委員会評価			
	C	<ul style="list-style-type: none"> 他県、他市町村で良いところや勉強したところをまとめて、役場だけでなく、各関連団体にも提供し、みんなでPRして、対応していけると良い。 		

総合戦略評価シート

No. 11

所管課 産業振興課

P (計画)	基本目標	基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進				
	基本的方向	町の魅力アップの推進				
	作戦	上三川町来てよいところPR				
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)		目標値 (H31)	
		サンフラワー祭り 来場者数	17,000	人	20,000	人
		夕顔サマーフェス ティバル参加団体数	18	団体	21	団体
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・フリーペーパーを活用した開催PR ・新聞記事を活用した開催PR ・無料のイベント情報配信サイトを活用した開催PR 				
	事業費	事業名			決算額(円)	
		かみのかわ景観スポット整備事業			6,704,000	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)		進捗状況 (A～Eで評価)	
		サンフラワー祭り 来場者数	20,000 (17,500)	人	B：目標達成に向けて順調に進捗している	
	夕顔サマーフェスティバル参加団体数	15 (17)	団体	C：やや遅れているが、概ね順調に進捗している		
	分析	「多くの広告媒体」「多くの回数」による周知は、集客に関しては効果が大きい。				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者の利便性向上のための駐車場の確保 ・来場者の利便性向上のための巡回バスの導入検討 				
A (改善)	実施予定、変更点など	・今年度も実施予定。				
参考	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・町内外へPRをもっと増やすべき。 ・サマーフェスティバル天候不良の場合、雨天の場合等の決行アナウンスを上手くやってほしい。 ・PRのDVDやyoutubeに流すなどの露出度UPを検討してほしい。 ・単独のイベントではなく、他の事業との共同開催や、近隣スポットもPRして集客UPを狙ってみてはどうか。 				
	B					

総合戦略評価シート

No. 12

所管課 上下水道課

P (計画)	基本目標	基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進		
	基本的方向	町の魅力アップの推進		
	作戦	水環境のPR		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
D (実行)	事業実績	加入促進のためペットボトルを作成。(H29年度は実績無し)		
		<ul style="list-style-type: none"> 戸別訪問による加入促進:約100世帯 ペットボトルの配布:約3,600本 		
	事業費	事業名		決算額(円)
		水道水ボトルドウォーター 作製業務		487,080
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A~Eで評価)
		上水道の接続率	88.2(87.7) H31目標値88.80 %	B:目標達成に向けて順調に進捗している
	下水道の接続率	84.2(84.2) H31目標値91.80 %	D:遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい	
	分析	<p>※KPIに関しては5年置きに実施するまちづくりアンケートの指標のため、満足度につながる別指標を使用。</p> <p>職員の個別訪問、また農集排区域については管理組合役員との合同による個別訪問等による加入促進の実施により、事業の必要性・安全性等について再周知を図ることが出来た。また、戸別訪問時及び他課を含めた事業説明会等でペットボトルの配布により水道水のPRが出来た。</p>		
課題	<p>訪問等により、快適な生活環境を確保する為、安全で衛生的な上下水道の必要性または、水道水の水質等について理解は少しずつ得られていると思われるが、接続をしない主な理由として、高齢世帯で跡継ぎがないことや、接続に要する工事費用を負担に感じている世帯が多くみられたことから、対策を検討する必要がある。</p>			
A (改善)	実施予定、変更点など	<p>引き続き戸別訪問により加入促進を図るとともに、ペットボトルを活用した水道水のPRを行っていく。また、接続しない主要要因として挙げられる工事費用の負担について、他市町の事例等を参考にしながら、負担軽減に繋がるような対策の検討を行う。</p>		
参考	評価委員会評価			
	C	<ul style="list-style-type: none"> ペットボトルを多く作って安く販売して、ブランドにしてはどうか。 自治会、管理組合などを通して、今後も引き続き積極的に推進して欲しい。 水道未加入の家には、水質検査をするように声かけすると良いと思う。 		

総合戦略評価シート

No. 13

所管課 企画課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実		
	基本的方向	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進		
	作戦	出会い応援プログラム		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
	交付金対象事業KPI (県：わがまち未来創造事業)	婚活イベント開催数	1 回	3 回
		社会増減数	-140 人	-100 人
婚姻届出数		142 件 (H25)	160 件	
	合計特殊出生率	1.42 (H25)	1.45	
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・1市2町(下野市・上三川町・壬生町)連携婚活を3回実施 ・商工会青年部主催 出会いのレシピ 1回 		
	事業費	事業名	決算額(円)	
	交付金対象事業費	新たなひとの流れを生み出す1市2町連携プロジェクト事業	1,615,666	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A～Eで評価)
		婚活イベント開催数	4 回 (4)	B：目標達成に向けて順調に進捗している
		社会増減数	24 人 (44)	A：目標以上に進んでいる
		婚姻届出数	140 件 (127)	B：目標達成に向けて順調に進捗している
		合計特殊出生率	1.37 (1.42)	C：やや遅れているが、概ね順調に進捗している
	分析	<p>1市2町連携婚活事業では、3回合計で51人の東京圏に住む女性に参加してもらい、18組のカップルが誕生した。(カップリング率35.3%)</p> <p>50名以上の女性が本町を含めた1市2町を回り、シティプロモーションを行うことは出来た。</p> <p>カップル誕生後の追跡調査について、事前に承諾をもらった参加者のみを対象に行なったが、全て「自然消滅」との結果だった。</p>		
	課題	<p>これまでは、出会いからカップル誕生までの支援をしていたが、その後のフォローや支援が必要である。</p>		
A (改善)	実施予定、変更点など	<p>昨年度の評価委員会でのご意見を踏まえ、平成30年度は初回に地元の男女を対象にしたイベントを予定している。</p> <p>追跡調査については、30年度は必須にするよう協議中。</p>		
参考	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の男女の婚活イベントを増やした方が、効果があるのではないか。 ・分析とフォローアップで着実に進めてほしい。 ・結婚を考えたときに、将来の在住地など不安に思う要因を覆す策が必要。 		
	B			

総合戦略評価シート

No. 14

所管課 健康課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実		
	基本的方向	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進		
	作戦	妊娠・出産応援プログラム		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		出生児数	248 人	248 人
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 不妊治療費助成事業(のべ37組、実31組、4,184,600円) 妊産婦歯科健康診査(妊婦76人、産婦10人、495,962円) 		
	事業費	事業名	決算額(円)	
		不妊治療費助成事業	4,184,600	
	妊産婦歯科健康診査	495,962		
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A～Eで評価)
		出生児数	240 (251) 人	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している
	分析	<ul style="list-style-type: none"> 不妊治療費の助成を行った件数は、延べ37組であった。また、治療を実施した者を年代別に見ると、20歳台が8.1%、30歳台が64.9%、40歳台が27.0%であり、30歳台で治療を行う夫婦が多かった。 平成29年度中に妊産婦歯科健康診査の受診票を交付した人数は274名、受診した妊産婦は86名であった。過去3年間の受診票交付者数と受診者数を用いた受診率は、平成27年度が16.3%(59名/361名)、平成28年度が28.2%(77名/273名)、平成29年度が31.4%(86名/274名)であり、受診率は上昇している。 		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを望むかどうかは夫婦の意思が尊重される。そのため、助成制度を周知や不妊に関する知識を普及させるほかは具体的な対策がとりにくい。 妊産婦歯科健診受診者のうち、健診結果が「異常なし」となった妊産婦の割合は、18.6%(16名)であった。健診を受けた妊産婦の5人に4人は歯に何らかの問題があることから、治療に結びつけるため更なる受診勧奨が必要である。 		
A (改善)	実施予定、変更点など	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ等を活用し、制度の周知を図る。 妊娠の届出など直接面談できる機会に、事業の周知を図る。 		
参考	評価委員会評価			
	B	<ul style="list-style-type: none"> 様々な方策をあげ、ひとつの課だけではなく、他の課との協力も得て情報発信をお願いしたい。 歯科検診の実績把握から、精度の向上を期待する。 年齢と妊娠のデータ等、知識としての情報を発信してもらいたい。 		

総合戦略評価シート

No. 15

所管課 福祉課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実		
	基本的方向	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進		
	作戦	多子世帯応援プログラム		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		第3子以降出生児数	39 人	39 人
D (実行)	事業実績	<p>●第3子以降出産祝金事業 第3子以降の子の出産に対し、赤ちゃん誕生祝金条例に基づき、祝金を支給。 平成29年度の支給件数は、40件×200,000円=8,000,000円 ※H29.4～H30.3支給分</p>		
	事業費	事業名	決算額(円)	
		第3子以降出産祝金事業	8,000,000	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A～Eで評価)
		第3子以降出生児数	45 (38) 人	A: 目標以上に進んでいる
	分析	平成29年1月～12月の出生児数(健康課:母子健康手帳管理簿より集計)。出生児数全体が減少傾向にある中、第3子以降の出生数は一定数を保っている状況である。平成29年度については、出生数・第3子以降の出生数ともに昨年度を大幅に上回った。(第3子:34人、第4子:10人、第5子1人)祝金の額は、県内で実施している市町の中で一番高い。		
	課題	支給の目的が子育て世帯の経済的負担軽減であるが、祝金受給のためだけの転入が増加することも懸念される。		
A (改善)	実施予定、変更点など	引き続き、祝い金の支給を実施する。		
参考	評価委員会評価			
	A	<ul style="list-style-type: none"> ・是非とも、第2子出産したお母さんに対して、本事業の積極的なPRをしてほしい。 ・祝金の額が県内では一番高いが、全国での順位と金額を把握してPRするとよい。 ・No.1になることも検討してほしい。 		

総合戦略評価シート

No. 16

所管課 健康課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実		
	基本的方向	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進		
	作戦	産後ママ応援プログラム		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		応援プログラム 利用者数	— 人	20 人
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> アンケート(ニーズ調査)の実施 事業内容の検討 		
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A～Eで評価)
		応援プログラム 利用者数	0 (0) 人	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している
	分析	アンケートの結果から、母親の育児ストレスの多くは、「赤ちゃんの成長・発育」や「子育て」からくることが分かった。したがって、運動のプログラムのみでは、育児ストレスを一時的に解消することはできるものの、その後の子育て支援には結びつかない。そこで、当プログラムは、運動と育児に関する教室・相談を合わせて実施し、家庭に戻った後の育児負担の軽減も図れる内容とする。		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 事業の実施に向けて内容を精査していく必要がある。 新規事業として実施するため、予算の確保が必要である。 		
A (改善)	実施予定、変更点など	<ul style="list-style-type: none"> 事業内容を具体化する。 事業実施に向けた予算の確保。 		
参考	評価委員会評価			
	C	<ul style="list-style-type: none"> 回答者が初めての子育て(第1子出産)か、2人目以降なのかでも回答内容は変わるので、次回のアンケートの際はわかると良い。 利用者アンケートで、利用前後で不安解消の効果あったのかどうか把握し、より効果があるものに作り上げてほしい。 「夫」の協力体制を作れるプログラムを検討して欲しい。 次年度は事業の具現化に向けしっかりと取り組んで欲しい。 対象者の範囲は、経過を見ながら広げて欲しい。 		

総合戦略評価シート

No. 17

所管課 福祉課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実		
	基本的方向	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進		
	作戦	保育サービスの充実		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
D (実行)	事業実績	特定教育・保育施設に対し、施設型給付費及び地域型保育給付を支給し、運営費の一部を助成する。延長保育や一時預かりといった特別保育に対して助成をする。保育施設整備を行う事業者に対して補助金を交付し、保育の受け皿を計画的に確保する。(大山保育所整備事業・ゆいのお保育園新設)		
		事業名	決算額(円)	
	事業費	保育所費	650,959,550	
		私立保育園助成事業	145,444,113	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A～Eで評価)
		待機児童数	2 (1) 人	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している
		子育て支援センター利用者数	11,470 (10,175) 人	A: 目標以上に進んでいる
	分析	待機児童数2名については、4月当初は希望する施設の保育士不足により受入が出来なかったが、翌月には保育士が確保できたため、入所となった。4月の時点で、各施設が入所定員の100%近くを受入れているため、年度途中の入所は困難な状況である。児童数自体は年々減少しているが、社会情勢の変化による共働き世帯増加の影響から、保育希望数は増加している。特に0～2歳については著しく増加しているため、保育ニーズの把握に努め、計画的に受け皿確保を推進する必要がある。		
課題	対象年齢の児童数全体は減少しているが、保育希望数は増加傾向にある。出生数と保育のニーズは、社会情勢により変化するため、今後の傾向を予測して必要量を正確に見込むことは困難である。			
A (改善)	実施予定、変更点など	平成29年度から、保育所入所の申込について、入所出来なかった場合には「入所保留」とし、引き続き入所選考会議にかけることに変更。(年度内に限る)		
参考	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所などに預けたいが条件が足りず預けられない方がどれくらいいるのかを把握し、改善案を検討してほしい。 ・全体の保育ニーズをつかみ、計画的に対策を進めて欲しい。 		
	B			

総合戦略評価シート

No. 18

所管課 福祉課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実		
	基本的方向	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進		
	作戦	障がい児の療育支援		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		1人あたり療育回数	1 回/月	4 回/月
D (実行)	事業実績	①障がい児通所支援事業 児童デイサービス 延べ利用人数:515人(H28:294人) 延べ利用日数:4398日(H28:2,045日) ②障がい児通所施設(上三川町こども発達支援センター)の改修工事を実施。		
	事業費	事業名	決算額(円)	
		障がい児通所支援事業	52,406,862 (うち児童デイ:36,582,356)	
		障がい児通所支援施設改修事業	35,890,116	
地方創生交付金 対象事業費	障がい児通所支援施設改修事業	35,890,116		
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A~Eで評価)
		1人あたり療育回数	8.5 (6.9) 回/月	A:目標以上に進んでいる
	分析	・県の指定をとる障がい児通所支援事業者が増加したこと、またその事業者と契約し、利用する障がい児が増えたため。		
	課題	・平成29年度実績は目標を達成しており、今後も発達に係る早い段階で療育の機会をより多くもてることは良いことであるが、その障がい児について一番効果が高い頻度を見極めていくことが必要。		
A (改善)	実施予定、変更点など	児童デイサービス等を提供する「こども発達支援センター」を町で整備し、平成30年4月に開所した。従来に比べ、身近な場所でサービスを受けられ、療育を受ける回数も増加する見込である。		
参考	評価委員会評価			
	A	・利用者(親)へのアンケートで、満足度を維持・向上させる工夫を考えると良い。		

総合戦略評価シート

No. 19

所管課 教育総務課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実		
	基本的方向	学校教育の充実		
	作戦	特色ある教育活動の推進		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
D (実行)	事業実績	①タブレット型端末整備事業について平成29年度は38台を導入 ②学校図書館の図書に児童生徒が活用する蔵書を増やす		
		事業名	決算額(円)	
	事業費	タブレット型端末整備事業	2,672,626	
		小学校図書館司書配置事業 中学校図書館司書配置事業	9,814,000	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A～Eで評価)
		タブレット型パソコン台数	38 (0) 台	B: 目標達成に向けて順調に進捗している
	町内学校図書館利用冊数	84,361 (80,974) 冊	A: 目標以上に進んでいる	
	分析	①タブレット型端末は予定どおり、平成29年度に38台を導入し、平成31年度までに順次整備を進めていきたい。 ②学校図書館の利用は授業で使う資料の増加により利用が増えている。継続的に現状と同様の利用が図れるように事業を進めていきたい。		
A (改善)	課題	新しい図書と古い図書の入替を、授業の進捗状況や児童生徒の興味に合わせ、どのように進めるか。		
	実施予定、変更点など	2020年から小学校における「プログラミング教育」を実施するにあたり、タブレット端末を活用した「プログラミング学習」も在り方についても研究を推進する。		
参考	評価委員会評価	・タブレット型端末の導入整備を計画的にすすめてほしい。 ・方策等、方向性、判断を決め明記し、それが事実かどうかの判断と自らにフィードバックをしながら進めてください。 ・プレゼンテーションスキル向上のため、プロを入れて教育することも必要。 ・ロジカルに考えられる人材、判断能力を教えてほしい。 ・フェイクニュースの判断など、情報収集能力を向上させることも検討してほしい。		
	B			

総合戦略評価シート

No. 20

所管課 総務課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり		
	基本的方向	安心安全を地域で守る体制の充実		
	作戦	がんばれ消防団事業		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		消防団員数	250 人	250 人
D (実行)	事業実績	○安全装備品の支給(幹部団員用防火帽×20個)		
	事業費	事業名	決算額(円)	
		消防団員活動服等更新事業	388,800	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A~Eで評価)
		消防団員数	250 (250) 人	A: 目標以上に進んでいる
	分析	消防庁の基準に基づき、消防活動時における団員の安全装備品の充実が図れた。		
	課題	条例定数250人は満たしているが、例年、新入団員の確保が困難となってきている。装備品の充実以外にも、消防団の魅力アップを図るような新たな施策の立案が急務である。平成30年度については、消防団サポート事業(応援の店・協力事業所表示制度 11カ所)を増やしていきたい。		
A (改善)	実施予定、変更点など	消防団員服制基準が改正されているため、規定された消防団員活動服への更新を予定している。		
参考	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・町主導で消防団のアピール、露出度の向上に努め、消防団行事以外のイベントへの積極的な参加やその参加状況が見えるようにしてほしい。 ・学校への出向いてのPRなど、小さい頃から消防団の魅力を伝え、将来に繋がるようにしてほしい。 ・女性消防団員の導入について、他市町村の状況を勉強してほしい。 ・団員確保、特に勧誘に苦勞している。町としての支援を検討してほしい。 		
	A			

総合戦略評価シート

No. 21

所管課 総務課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり		
	基本的方向	安心安全を地域で守る体制の充実		
	作戦	自主防災組織の推進		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		自主防災組織数	— 箇所	40 箇所
D (実行)	事業実績	○自主防災事業活動補助金 337,000円(7組織/11自治会) ○自主防災組織設立事業交付金 400,000円(8自治会)		
	事業費	事業名	決算額(円)	
		災害対策費	737,000	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A~Eで評価)
		自主防災組織数	22 (13) 箇所	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している
	分析	平成30年3月末時点で21箇所、4月に1箇所設立され、現在22箇所となっている。 平成30年度は、推進計画に基づき16箇所の自治会に、説明会を行うこととしている。		
	課題	防災意識に地域間格差があり、組織設立に至るまでのプロセスが異なるため、予定通り進まない場合がある。		
A (改善)	実施予定、変更点など	自主防災組織の事業活動が一時的なものではなく、毎年継続して行っていただけるよう、計画策定時にアドバイスをを行う。		
参考	評価委員会評価	・打った手と成果が見えるようにしてほしい。 ・「災害に強いまち」、「防災のまち」としてPRできるよう強化してほしい。 ・自主防災組織が自由に活動、使用できるように、補助金の仕組みを考えてもらいたい。 ・町として、どのような規模の災害を想定して、どの部分を自主防災組織に期待しているのか、ビジョンを明確に示す必要がある。 ・いつ、どんな災害があるか分からない、上三川町でも必要であるという周知が必要。目標年度を決めて全ての自治会で立ち上げるようにしてほしい。		
	C			

総合戦略評価シート

No. 22

所管課 総務課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり		
	基本的方向	安心安全を地域で守る体制の充実		
	作戦	安心・安全！子どもを守るかみたんプロジェクト		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		交通安全対策の状況に関する町民の満足度	27.6 %	50.0 %
D (実行)	事業実績	○道路危険箇所等の改善(カーブミラー及び啓発看板の設置等(35箇所)) ○交通安全運動の実施(年3回他に街頭広報3回) ○交通安全関係団体の活性化(4団体) ○交通安全教室の開催(12回、高齢者メイン・H29からは、未就学児も含む) ○高齢者運転免許証自主返納事業(デマンド交通回数券(51名))		
	事業費	事業名	決算額(円)	
		交通安全対策費	2,019,600	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A～Eで評価)
		交通安全対策の状況に関する町民の満足度	— (—) %	B: 目標達成に向けて順調に進捗している
	分析	交通安全対策については、数値化しづらいものも多いが、町民の要望に応じ、町で対応できないものについては、関係機関(警察及び道路管理者等)に引き継ぐなど、適時処理するなどの対応を行っている。		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進展に伴う高齢者の交通事故件数の増加 ・子どもをはじめとする歩行者の安全性の確保 ・危険箇所の再確認など交通事故発生要因の分析による実践的な交通安全対策が必要 ・交通事故発生抑制には安全意識を浸透させる継続的な啓発が必要 		
A (改善)	実施予定、変更点など	高齢者運転免許保持者の自主返納事業の報奨品等の見直しを行い、自主返納のしやすい環境を整えていく。		
参考	評価委員会評価			
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の運転免許証保持者が、自主返納しやすいような環境を整えて欲しい。 ・現状の分析に基づく、具体的な対応等、そしてその成果を見えるようにしてほしい。 		

総合戦略評価シート

No. 23

所管課 保険課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり		
	基本的方向	いきいき生活の推進		
	作戦	こんにちは、じいちゃんばあちゃん訪問事業		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		安否確認センサーや緊急通報装置の設置者数	70 人	85 人
D (実行)	事業実績	安否確認・緊急通報システム 新規人数 平成27年度 7人 平成28年度 11人 平成29年度 13人		
	事業費	事業名	決算額(円)	
		家庭内の事故等への対応の体制整備事業	1,970,892	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A~Eで評価)
		安否確認センサーや緊急通報装置の設置者数	83 (70) 人	B: 目標達成に向けて順調に進捗している
	分析	新規設置者は、平成29年度は年間で24人あったが、死亡・施設入所等による撤去者も出ていたため13人増にとどまった。		
	課題	独居でも住み慣れた地域で出来るだけ長く生活できるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進する必要がある。		
A (改善)	実施予定、変更点など	事業の周知を図り、平成32年までに90人の設置を目指す。平成31年目標値87人。		

参考	評価委員会評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町として「地域包括ケアシステム」がどうあるべきか、町と社会福祉協議会と自治会の役割分担がどうあるべきかなどがあやふやで、町のビジョンが描けていない。具体的に示してほしい。 ・独居高齢者数の把握をきちんとしてほしい。 ・全体像を把握して、その中の安否センサー項目として位置づけ、見える様にしてほしい。 ・より効果的なシステム構築化を進めてほしい。 ・緊急時のみならず、ゆくゆくは災害時にも隅々まで様々な連絡が行き届くようなシステムを期待する。

総合戦略評価シート

No. 24

所管課 保険課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり		
	基本的方向	いきいき生活の推進		
	作戦	生きがいづくり推進事業		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		生きがいサロンの参加延べ人数	4,207 人	4,500 人
D (実行)	事業実績	高齢者支援協議体(年間12回開催) かみしるべの発行(11,000部×2回)発行(全戸配付・関係機関等配布) 楽しく隊・創年倶楽部運営ボランティア養成講座開催		
	事業費	事業名	決算額(円)	
		地域包括生活支援体制整備事業	2,219,095	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A~Eで評価)
		生きがいサロンの参加延べ人数	5,840 (5,513) 人	A: 目標以上に進んでいる
	分析	自治会単位のミニサロンがひろがり、身近な地域での活動が増え、参加者の増加に繋がった。		
	課題	ミニサロンが立ち上がった自治会はまだ一部で有り、今後全自治会に普及を図るためには、運営ボランティアの育成が課題。		
A (改善)	実施予定、変更点など	かみしるべの配付について班回覧(H28)から全戸配付(H29)とした。		
参考	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> 延べ人数ではなく、利用者数で把握してほしい。 現在うまくいっている11自治会のサロンの内容について、サロンのリーダーが他の自治会へ紹介する場を検討してはどうか。 「真の生きがい」づくりとは何かを議論するべきである。 地域でリーダーシップをとる人を育てることが大切。 		
	A			

総合戦略評価シート

No. 25

所管課 健康課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり		
	基本的方向	いきいき生活の推進		
	作戦	健康づくりの意識づけ支援事業		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		健康マイレージ 参加者数	— 人	900 人
D (実行)	事業実績	<p>健康マイレージ事業(1,442,000円)</p> <p>①事業内容の見直し</p> <p>1 およこ健康マイレージを開始</p> <p>2 「チャレンジシート」を分かりやすく改正</p> <p>3 「チャレンジシート」に参加者アンケートを追加</p> <p>②町民に対する啓発</p> <p>1 町の保健事業・広報・自治会や団体総会等での啓発に加え、若年層への啓発強化のため、かみたんメールによる啓発回数を増加。 (保健事業等:175回、広報:4回、かみたんメール:8回)</p>		
	事業費	事業名	決算額(円)	
		健康マイレージ事業	1,097,006	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A～Eで評価)
		健康マイレージ 参加者数	589 (449) 人	B: 目標達成に向けて順調に進捗している
	分析	<p>参加者は昨年度に比べて増加している。</p> <p>参加者へのアンケート調査では90%以上が「今後も健康づくりを実践したい」と回答しており、健康づくりの意識付けが図れている。</p> <p>およこ健康マイレージにより若年層の参加を促すことができた。</p>		
	課題	<p>およこ健康マイレージの参加者が37組と少なかった。</p> <p>引き続き若年層の参加促進のため事業等の見直し及び啓発強化に努める必要がある。</p>		
A (改善)	実施予定、変更点など	<p>関係機関等と連携を図り事業の啓発を強化する。</p> <p>若年層の参加者を増やすため、およこマイレージの対象者を幼稚園児から小学生まで拡大する。</p> <p>更に3か月間健康づくりを継続した方を「健康マイレージの達人」として認定する。</p>		
参考	評価委員会評価	<p>・簡単に取り組めるように誘導し、さらなる健康マイレージ事業の積極的なPRを期待する。</p> <p>・他の課との連携強化でポイントUP等を検討してほしい。</p> <p>・チャレンジシートの目標項目について、選びやすいように項目の選定方法を工夫してほしい。</p>		
	B			

総合戦略評価シート

No. 26

所管課 生涯学習課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり		
	基本的方向	いきいき生活の推進		
	作戦	運動のきっかけづくり支援事業		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		週1回以上の運動をしている町民の割合	30.0 %	40.0 %
D (実行)	事業実績	<p>【町民スポーツレクリエーション祭事業】</p> <p>①より広くへのPRとして、A4サイズのポスターを町広報誌と一緒に配布し、自治会班回覧を行った。また、スーパーマーケット、ドラッグストア、ホームセンターなど10箇所の大型店舗にポスター掲示を行った。</p> <p>②小さな子供連れの若い世代でも、イベントに参加してもらいやすくする為に、プロのMCを導入しイベント全体の進行度を分かりやすくすると共に、小児用のエア遊具を導入しイベントへの導入口として機能させた。</p> <p>③各競技の優勝者をメインステージ上で表彰する形に変更し、参加者の満足度向上に努めた。</p> <p>【体育施設等指定管理事業】</p> <p>①月例報告時の体制を充実させ、指定管理者と町の双方向意見交換の精度を向上させ、体育館利用の窓口となり得る自主事業の充実につなげた。</p>		
	事業費	事業名	決算額(円)	
		町民スポーツレクリエーション祭事業	3,116,852	
	体育施設等指定管理事業	15,185,000		
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A～Eで評価)
		週1回以上の運動をしている町民の割合	※ 町内アンケート等が必要	—
		スポーツレクリエーション祭の参加者	3,660 (3,050) 人	A：目標以上に進んでいる
		体育施設の年間利用者	124,098 (132,292) 人	C：やや遅れているが、概ね順調に進捗している
	分析	<p>・スポレク祭参加者数はPRの成果があり前年度比20%増となった。体育施設の利用者は、冬季の厳しい寒さや降雪が影響し前年度比6.2%減となった。</p> <p>・参加者や利用者向けのアンケートを前年度までの改善点を生かした上で、内容の改善を行い実施しており、今後の更なる参加者増に結び付ける方策の検討材料として有用だと考えられる。</p>		
課題	<p>スポーツ(又は、そのイベント)に興味のない人達を、スポーツに呼び込めるイベント作りやPRの方法を検討し続ける必要がある。</p>			
A (改善)	実施予定、変更点など	<p>・スポレク祭やスポーツイベントに参加者を増やし、より盛り上げる方法等について、上三川高校の生徒会の皆さんと意見交換を行った。</p>		
参考	評価委員会評価			
	B	<p>・新しい取組の成果とアンケートなどで良い方向にもって行ってほしい。</p> <p>・より多くの意見を集約して、盛り上げて欲しい。</p> <p>・企業への働きかけて参加者を募ることも有効だと思うので検討してほしい。</p>		

総合戦略評価シート

No. 27

所管課 福祉課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり		
	基本的方向	障がい者支援の充実		
	作戦	障がい者の雇用支援事業		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		就労者の賃金 (時給換算)	130 円	最低賃金の3分の1 (245円)以上 円
D (実行)	事業実績	工賃に大きな影響を及ぼす納品先が減ってしまい、平成29年度工賃が下がってしまった。		
	事業費	事業名	決算額(円)	
		障がい者支援事業	0	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A~Eで評価)
		就労者の賃金 (時給換算)	242 (264) 円	B: 目標達成に向けて順調に進捗している
	分析	・工賃がH26年度比で約2倍になっているが前年度比 22円減となっている。納品先の道の駅ましこがなくなってしまったため。		
	課題	・販路拡大、商品の開発、販売の形態の工夫。		
A (改善)	実施予定、変更点など	<ul style="list-style-type: none"> ・お店にイートインスペースを作り、お店自体の売り上げを伸ばす。 ・イベント等に積極的に顔を出し、直接販売を行う。 		
参考	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物直売所で販売できるようにするなど、更なる販路拡大に努めて欲しい。 ・イベントでは「のぼり旗」などの、視覚的な目立つ工夫、売れる工夫を考えてほしい。 		
	B			

総合戦略評価シート

No. 28

所管課 福祉課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり		
	基本的方向	障がい者支援の充実		
	作戦	音声広報による情報提供		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		音声広報CDの 利用者数	— 人	20 人
D (実行)	事業実績	「広報かみのかわ」をDAISYにより録音、CDを作り、視覚障がい者等に配布した。また、視覚障がい者のサークルに訪問し、CD再生用機械の申請方法について説明を行い、取得を促進し、対象者の拡大を図った。		
	事業費	事業名	決算額(円)	
		視覚障がい者情報 伝達事業	0	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (昨年度実績値)	進捗状況 (A～Eで評価)
		音声広報CDの 利用者数	4 (4) 人	D：遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい
	分析	・作られたCDが、サークル会長の知り合い内での配布にとどまっている。視覚障がいを持つ方に町情報を拡散するための手法を検討する必要がある。		
	課題	・音声広報CDを視覚障がいをもつ人に広く周知する方法及び利用の定着の工夫。		
A (改善)	実施予定、変更点など	日常生活用具給付事業実施要綱を一部改正し、平成30年4月から視覚障がい者用ポータブルレコーダーの基準額を増額したところ。機器とCDの広報・普及に努める。		
参考	評価委員会評価			
	C	<ul style="list-style-type: none"> ・重度視覚障がい者のいる世帯への、CD再生用機械の周知徹底をお願いしたい。 ・対象世帯には、専用機械の貸し出しを可能にしてほしい。 ・今後も利用の増加に取り組んでほしい。 		